

## 平成28年7月16日（土）の「仏教女性の集い」

今日は祇園祭宵山です。市中の鉾町では「コンチキチン」と男性の町衆によるお囃子が賑やか、こちら東山の麓の吉水尼僧庵では、今月も女性だけのお念仏が響きます。

4月からお教えいただいている「佛遺教経」も今回が最終回です。このお経は、入滅間近のお釈迦様が最後の教えとして、遺される仏弟子等のために、修行や生活のあるべきようを説かれたものです。戒律を尊重すること、五欲を慎むこと、「四諦」の理を疑わないことを諭し、「八大人覺」を教えられました。私が事前に知っていた知識は、梅尾の明恵上人がこのお経を読み、涙を流されたことと、そのお経を生涯肌身離さずお持ちになったことだけでした。

さて私は学びの最初に、一つ目標を立てました。幼子の心に戻ってお釈迦様ともう一度出逢い直すのです。

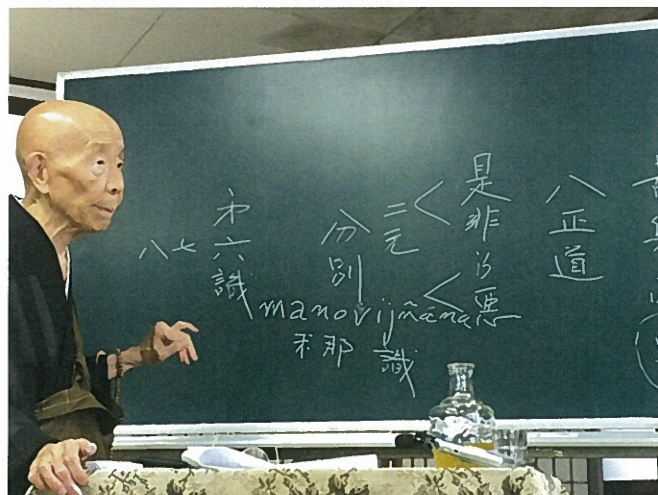
お寺の保育園に通う幼児の頃、粗相をしては「ののさま（お釈迦様）にあやまりなさい」「悪い子はえんま様のところよ」と大人に厳しく叱られたものですが、どれだけお詫びしたつもりでも、ののさまは沈黙のまま。どうも私は地獄行きらしいと怖がっておりました。あれから何十年がたったでしょう、「佛遺教経」をお教え頂くご縁に恵まれながら「お釈迦様は苦手です」と訴える私に、「お釈迦様も阿弥陀様も同じお心なのよ」と諭された近藤先生のお言葉。私には解せないそのお言葉の意味をよく考えてみることにいたしました。そして、相変わらず不可解なままで迎えた最終回です。今日こそ私はお言葉の意味を理解できるでしょうか、そしてお釈迦様と新しく出逢えるのでしょうか。少し緊張しながらノートを広げました。

しばらくして、やはり私には難しいお言葉だったな・・とうっすら、あきらめかけた瞬間のことです。次の一文が力強く耳に響き、目に飛び込んできました。

「應さに度すべき者は、若しくは天上、人間皆悉く已に度す。其の未だ度せざる者は、皆亦已に得度の因縁を作す。」

（私が救うべきものは、天上界の者であれ、人間界の者であれ生きとし生けるものはみなすべて救い終えました。たとえまだ救われない者があろうとも、その者たちのためには、いつか必ず救われるための教え、縁を遺しておきました（から必ず救われます）。

※本稿執筆者訳）



初めてお釈迦様が私に語りかけてくださった！ と、途方もなく暖かなものに触れた気持ちがいたしました。すべての対象をあまねく濟うという絶対の縁、仏の慈悲。私も必ず濟っていただけるのです。その縁を作っておいたとおっしゃる。どのようなご縁をくださったのか。「あなたのことは阿弥陀様にお頼みしよう、お念仏をなさいね。」ということに違いありません。ともかくここに座って皆様にお念仏を教わっているのですから。あなたを救いとうと願われるお心は、阿弥陀様もお釈迦様も同じ。

お釈迦様は、目の前に集うお弟子だけを見つめて最後のお説教をなさったわけではありませんでした。そのお弟子の後ろに連なる無数の者への眼差しがありました。

私はお釈迦様と同じ時代に生きることはできませんでしたが、そのご生涯の最期に確かな教えをいただきました。お聞きになったお弟子様の手から手へ、ついに近藤先生がアンカーとなって、私に手渡してくださったお釈迦様からの贈り物です。この贈り物をいただくのにどれだけの僧が関わってくださったのでしょうか。私がお心気づくためにも比丘らは出家し、遺教経に示される戒を守り厳しい修行をしてくださったのかとすら思えます。

やっと、自分に振り向けられたお釈迦様の眼差しに気づけた私の感動をよそに、お釈迦様は沙羅双樹の間に身を横たえ、あたりは物音がありません。集うお弟子は涙を流している人もあるでしょう。お釈迦様は入滅なさったのです。その静けさは、燃える夕日が山に隠れたようではなかったかと想像します。脳裏には涅槃図の様が浮かんでいます。

象も小鳥もお釈迦様のお心を知っていたから眠る仏のお側で泣きじゃくって悲しんだのでしょう。動物たちの万分の一、私もお心に触れられたのでしょうか、涙がでる思いです。

茶話会では近藤先生が知恩院門前の白川に架かる行者橋になぞらえて、二河白道のお話をしてくださいました。火の河と水の河の間に細い白道、旅人は彼方の岸から聞こえる阿弥陀様のお声に向かって一步を踏み出します。此の岸からはお釈迦様が阿弥陀様のところへ渡りなさいと後押ししてくださるといふ。遺教経でお約束くださったことと合点しました。「この道をまっすぐ、安心して行くのですよ」、とお釈迦様が励ましてくださっています。今日からは、お念仏を申すたびに、阿弥陀様はもちろん、お釈迦様もご一緒に私を見守ってくださっているんですね、と、お約束ですよという気持ちでおそるおそる、行者橋を渡って帰りました。



・今月のお菓子は「行者餅」。祇園祭宵山のたった一日しかいただくことのできないお菓子だそうです。毎月お世話くださる方々の季節を愛おしまれる心、おもてなしくくださるお気持ちに感謝しつつ貴重なお菓子をいただきました。

(参加者感想M・O)

8月の「仏教女性の集い」はお休みです。

次回の「仏教女性の集い」は平成28年9月17日です。

皆様のご参加をお待ち致しております。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時  
参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。  
条件は女性であることだけです。  
多数のご参加お待ちしております。  
市バス[知恩院前]下車、東へ150m  
『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場)で開催致しております。  
問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで



「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。